

煌け! 登美北

平成27年9月3日(木)
奈良市立登美ヶ丘北中学校
生徒指導だより
文責:三間瀬 充宏

2学期がスタート!

長かった夏休みが終わり、事件や事故に遭うこともなく元気に登校して来た君達の姿を見て、「良かった」と安心すると同時に、この休みの間にみんなはどんな体験をしたのだろうかと思いを巡らせました。家族での旅行がとても思い出残るものになった人もいれば、新チームがスタートして初めての試合に緊張した人、長い休みのときにしかできないことに取り組んだ人など、一人ひとりにいろいろな出来事があったことでしょう。私も今回の休み中に感動することがいくつかありました。

それは何かというと「スポーツ」です。スポーツは競技者が厳しい練習の成果を出し切って勝つことだけではなく、それを観ている人達にも感動を与え、そこに至るまでの秘話が存在します。休み前でしたが、サッカー女子W杯では日本代表は準優勝をしました。そのとき、主将の宮間あや選手は、決勝のアメリカ戦前に、「今サッカーを始めようとしている少女たちや頑張っている選手たちが、きちんとサッカーを最後まで頑張れたと言えるような環境であったり、私達を目標に頑張ろうと思ってくれる選手が最後までサッカーができるように、女子サッカーが文化になっていけばいいと思う」と語りました。後に続く選手たちへの思いを持って戦っていたのです。また、野球では、大リーグの岩隈久志投手がノーヒット・ノーランの快挙を達成した会見で、被災地東北のファンに対し、こう語りました。「一步一步前進してがんばっている皆さんに、また一つ勇気を与えることができたのかなと思う」と。どこにいても被災地を忘れていないのです。そして、高校野球では、準優勝した仙台育英高校の主将・佐々木柊野選手は「僕はこれで野球をやめます。母子家庭で私学に行かせてもらって母には苦勞をかけました。卒業したら消防士になります」という決断には、お母さんへの強い想い、感謝の気持ちが伝わってきます。

このような話は、決して遠い世界の話ではありません。始業式の時多くの方が表彰をされました。表彰された人達の陰には共に練習に頑張ったなかまや励まし協力してくれた家族がいます。ただ、日常生活に溶け込んでいるために気づかないだけなのです。自分を支えてくれる人の存在を忘れず、これからの学校生活を実り多いものにしていきましょう。それが、みなさんを応援してくれる人達への最大の恩返しだと思います。

やりなおしはいつでも(節目の意味)

人間の成長は真っ直ぐ右肩上がりになることは少なく、何をやってもうまくいかないときもあるものです。夏休み、自分の成長を確認できた人はラッキーです。しかし、思う通りに過ごせなかった人もいることでしょう。9月を2回目のお正月と考え、もう一度、今後の目標を立ててみましょう。大丈夫!この年度もまだ、半分あるのです。できなかったことよりも、できることを探そう。

(月刊生徒指導9月号参照)

